

Ⅳ 喫煙習慣

1 喫煙経験

半年以上にわたってタバコを吸っていたことがあるかを尋ねた（以下喫煙経験とする）。喫煙の有無と現在の喫煙状況を示したものが〈図16〉である。喫煙経験「あり」と答えた比率は25.5%と、全体の4分の1を占めている。喫煙経験「あり」と答えている者について現在の喫煙状況をみると、「毎日吸っている」者が65.6%である。「やめた」と答えている者は21.0%である。

回答者の喫煙者率（毎日吸っている者の比率）は16.8%である。会員と日本人全体（以下一般とする）を比較したものが〈表13〉である。会員の女性是一般よりも喫煙者比率が1.6ポイント高い。男性に関しては一般よりも喫煙者比率が0.5ポイント低い。

また、喫煙を始めた年齢は、経験者全体で平均21.7歳ごろ、経験者のうち喫煙をやめた年齢は平均29.6歳ごろである。

年齢別にみた喫煙経験者率は、「40～44歳」が20.7%と最も高く、年齢が高くなるにつれて喫煙者率が低くなっている〈統計表第135表〉。

業務別にみた喫煙者率は「准看護婦・士」が27.1%と最も高く「保健婦・士」の喫煙者率2.1%と比較して25ポイントの差がある〈統計表第138表〉。勤務場所別にみた喫煙者率は「社会福祉施設」が27.8%と最も高く、ついで「診療所」の22.9%である〈統計表第140表〉。

2 喫煙理由

喫煙経験者に対して喫煙理由を尋ねた結果を示

表13 喫煙者率

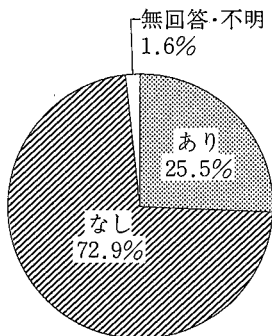
	会 員*	一 般**
女 性	16.1	14.5
男 性	55.6	56.1

* 会員の喫煙者率は、「毎日吸っている」と回答した数を回答者数で除したもの。

** 一般の喫煙者率は厚生統計協会「国民衛生の動向」98年版掲載、97年度のわが国の喫煙者率、日本たばこ産業株式会社調べより。

図16 喫煙の有無と現在の喫煙状況

喫煙経験の有無



喫煙経験者の現在の喫煙状況

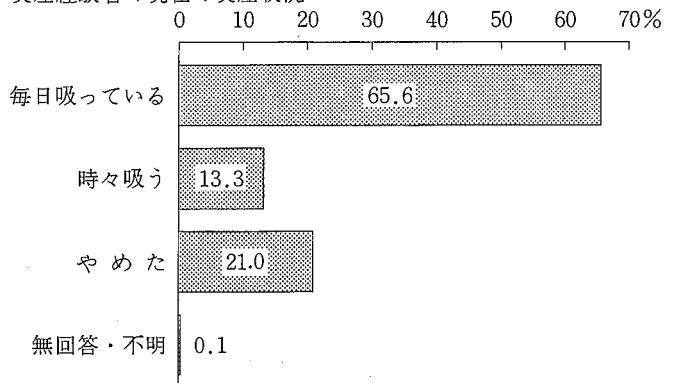
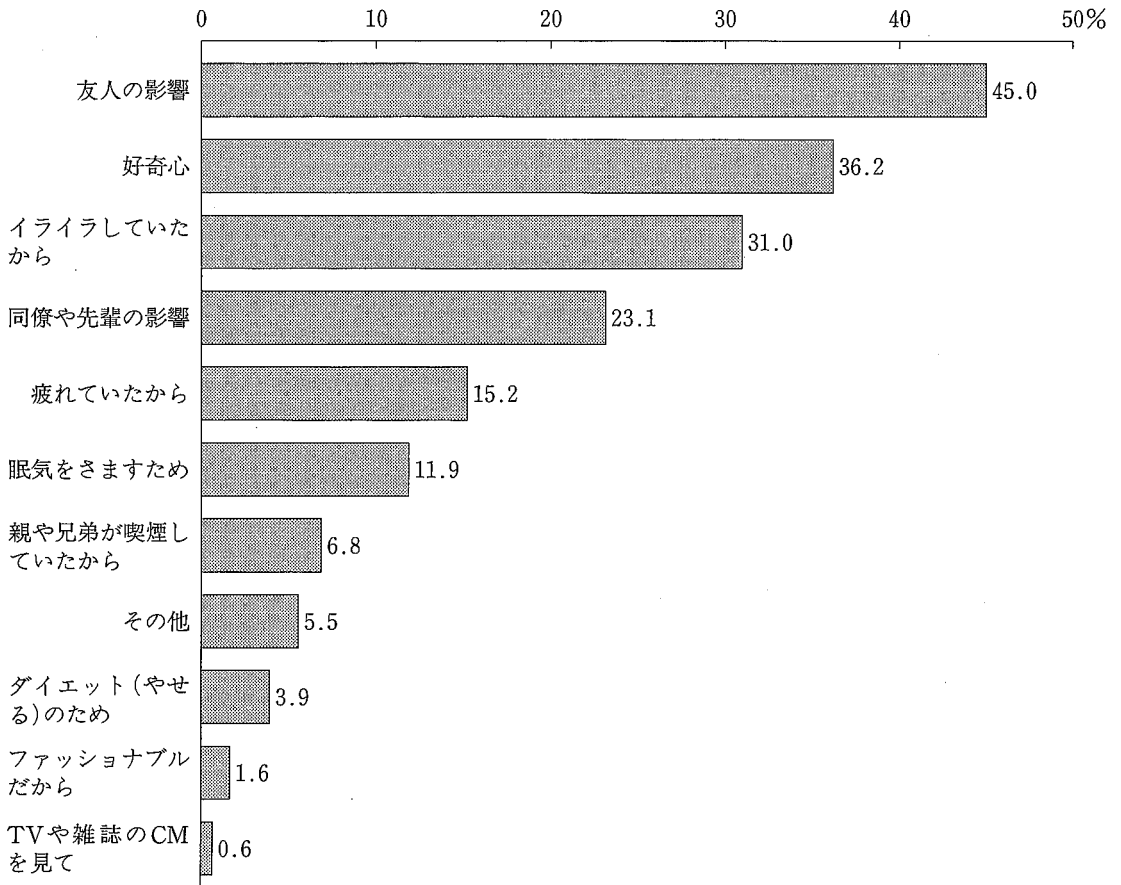


図17 喫煙理由〈複数回答〉



したものが〈図17〉である。喫煙理由で最も高いのが「友人の影響」で45.0%、ついで「好奇心」36.2%、「イライラしていたから」31.0%と続いている。年齢別に見ると「20～24歳」と「25～29歳」では「イライラしていたから」と回答している比率が高い〈統計表第141表〉。

3 禁煙を試みた経験

喫煙経験者に対して禁煙を試みた経験を尋ねた結果を示したものが〈図18〉である。

最も比率が高かったのは「禁煙を試みたが、成功しなかった」31.6%で、ついで「禁煙を考えたことはあるが何もしたことはない」21.9%の順となっている。一方で、「禁煙を試みて成功した」

という比率が21.3%である。これは図16で示した「現在の喫煙状況」で（喫煙を）「やめた」21.0%とほぼ同じ比率である。また、子供の有無別にみると、「禁煙を試みて成功した」と答えている比率が「子供あり」25.3%、「子供なし」17.0%と、「子供あり」群のほうが「禁煙を試みて成功した」比率が高い〈統計表第149表〉。

4 喫煙についての意見

喫煙経験者に対して喫煙についての意見を尋ねた結果を示したものが〈図19〉である。上位2つは「自分の健康上、喫煙は好ましくない」72.0%、「胎児や子供の健康のために喫煙すべきではない」68.8%で、喫煙が健康に及ぼす害についての意見

図18 禁煙を試みた経験

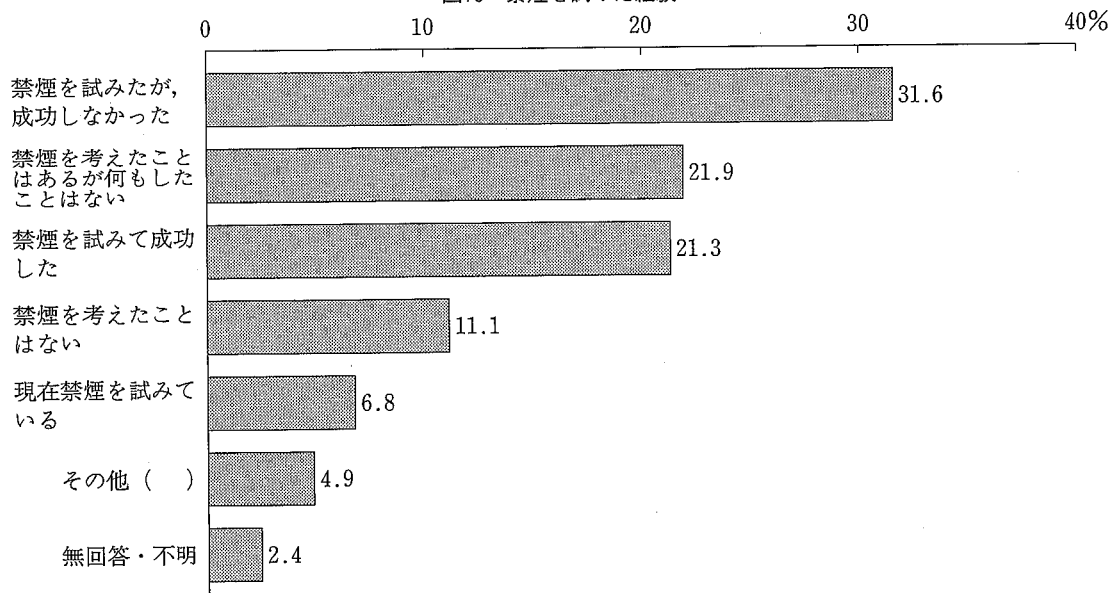
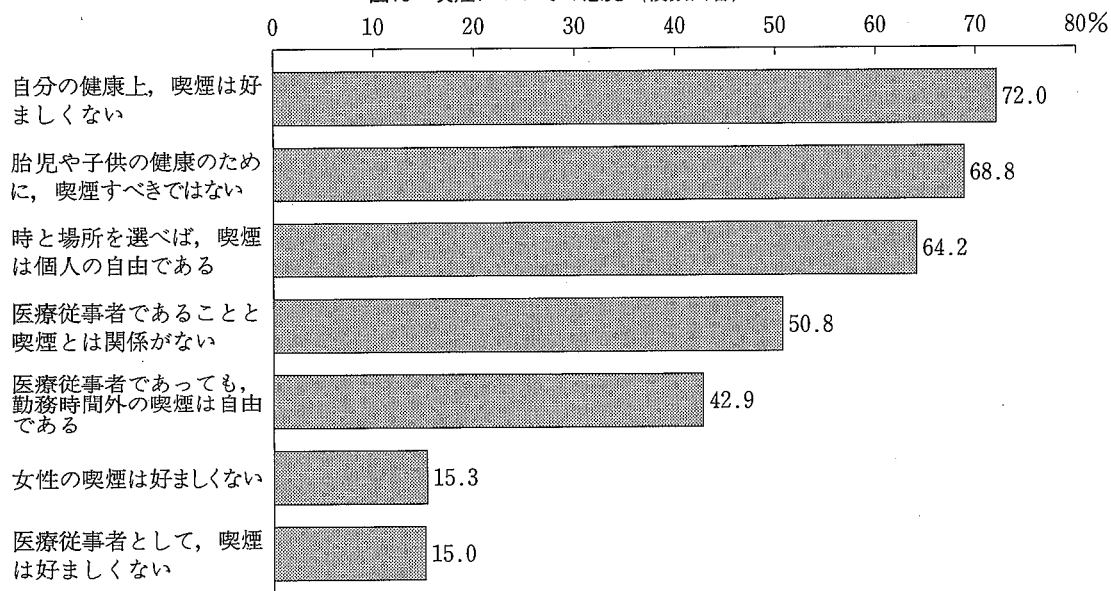


図19 喫煙についての意見〈複数回答〉



である。一方、「時と場所を選べば、喫煙は個人の自由である」64.2%、「医療従事者であることと喫煙とは関係がない(個人の問題である)」50.8%、「医療従事者であっても、勤務時間外の喫煙は自由である」42.9%といった、医療職であることと喫煙とは無関係であるという意見も半数近く

ある。また「医療従事者として、喫煙は好ましくない」15.0%、「女性の喫煙は好ましくない」15.3%といった意見は少数であった。属性別にみた喫煙に対する意見は統計表を参照されたい(統計表第153~158表)。